

昭和大学医学部 リハビリテーション医学講座 専攻医プログラム



昭和大学医学部
リハビリテーション医学講座

なぜ、今・・・

リハビリテーション医学なのか？



リハビリテーション専門医・不足

夕刊 読 賣 新 聞

医師不足2万4000人

厚生労働省は29日、医師不足などを把握する調査で回答を得た全国8698の医療機関で、計2万4033人の医師が不足しているとする結果を発表した。回答した病院の現在の医師数は計16万7063人で、その1・14倍が必要になる計算だ。不足数に着目した同省の実態調査は初めて。

厚労省調査

リハビリ、救急科 深刻

調査は6月1日現在で、病院と分岐（ぶんぎ）を取り扱う診療所の全国計1万262の医療機関を対象にした。回答率は84・8%。医師不足数は、医療機関が求人している医師数1万8288人に、求人していないものの不足していると医療機関が判断した人数を加え、計1万4033人とした。

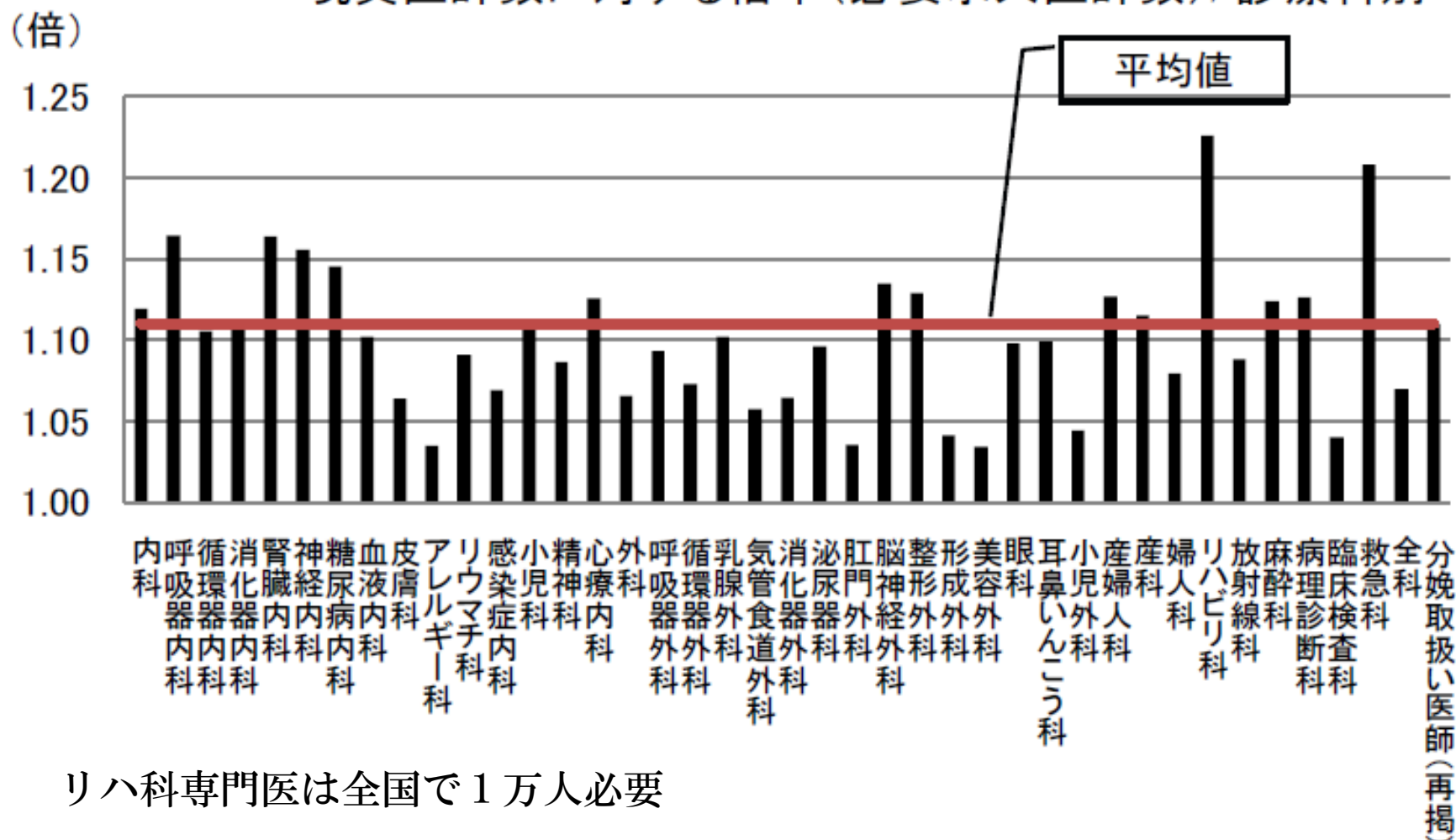
都道府県別では、岩手県で必要な医師数が現在の医師数の1・4倍に達したほか、青森が1・32倍、山梨

◆必要な医師数の倍率が高い自治体

岩手県	1.40倍
青森県	1.32
山梨県	1.29
山根県	1.28
大分県	1.26
山形県	1.24
岐阜県	1.24
高知県	1.24
福島県	1.23
新潟県	1.22
滋賀県	1.22
徳島県	1.22

(厚労省調べ)

現員医師数に対する倍率(必要求人医師数)/診療科別



リハ科専門医は全国で1万人必要

現在；リハ科専門医は全国で3500人

Q1将来重要度が増す診療科 (n=1668)

内科	337	20.2%
総合診療科	327	19.6%
リハビリテーション科	166	10.0%
精神科	152	9.1%
整形外科	132	7.9%
外科	75	4.5%
麻酔科	55	3.3%
放射線科	52	3.1%
小児科	43	2.6%
救急科	41	2.5%
産婦人科	41	2.5%
泌尿器科	33	2.0%
眼科	28	1.7%
脳神経外科	27	1.6%
病理診断科	25	1.5%
形成外科	25	1.5%
皮膚科	23	1.4%
耳鼻咽喉科	12	0.7%
臨床検査	4	0.2%
ない・その他回答	70	4.2%

Q2後輩に薦めたい診療科 (n=1668)

内科	375	22.5%
総合診療科	244	14.6%
整形外科	114	6.8%
外科	112	6.7%
リハビリテーション科	98	5.9%
麻酔科	82	4.9%
精神科	78	4.7%
放射線科	62	3.7%
救急科	56	3.4%
小児科	51	3.1%
皮膚科	48	2.9%
病理診断科	45	2.7%
眼科	43	2.6%
産婦人科	42	2.5%
泌尿器科	31	1.9%
脳神経外科	29	1.7%
形成外科	23	1.4%
耳鼻咽喉科	20	1.2%
臨床検査	7	0.4%
ない・その他回答	108	6.5%

なぜ、今・・・

昭和大学なのか？



昭和 6 0 年：整形外科教室内診療科として理学診療科
（初代診療科長森教授）が創設される。

平成 元年：理学診療科入局者第 1 号入局
（当時は整形外科教室に入局）

平成 2 年：昭和大学藤が丘リハ病院開設。

平成 3 年：整形外科より分離独立が認められる。
リハビリテーション医学診療科設立
（初代診療科長森教授）

平成 9 年：昭和大学保健医療短期大学開設

平成 1 4 年：昭和大学保健医療学部開設

平成 1 4 年：リハビリテーション医学診療科診療科長交代
（第 2 代目診療科長水間教授）

平成 2 1 年：昭和大学医学部リハビリテーション医学講座設置
（初代主任教授水間教授）

昭和大学のリハ医学は 生活（活動）を支える医学

心身機能障害



活動制限（日常生活上での支障）



参加制約

チームで取組む（中核、拡大、地域）



昭和大学リハ医学講座の

教育方針

3つの誓い

- ○病気（先天性疾患を含む）や外傷、加齢によって生じる様々な障害を予防する事、そして、診断・治療を行い、機能を回復し、活動を向上させて、社会参加へ向けての支援を総合的に行うことのできるリハビリテーション科専門医を育成いたします。
- ○急性期医療、回復期医療、生活期医療、そして社会福祉保健活動にわたり幅広く対応する事ができ、あらゆる分野でのリハビリテーションの場で活躍できるリハビリテーション科専門医を育成いたします。
- ○臨床医のひとりとして、第一線の医療現場（在宅医療など）でも活躍できる知識や技術をもった医師を育成いたします。

昭和大学リハ医学講座の 教育方針 3つの力

- 障害を診る力
- 障害者を理解する力
- 障害者をサポートする力



研修内容

- 障害を診る力
 - ・ 基本的障害評価法、評価技術の取得
(ROM, MMT, Br. Stage, 嚥下評価など)
- 障害者を理解する力
 - ・ 外来、VF・VEへの参加
 - ・ 回診（嚥下回診を含む）、各種カンファレンスへの参加
- 障害者をサポートする力
 - ・ リハ処方、訓練現場指導、義肢装具
 - ・ 各種障害者手続き書類
(身体障害者手帳、介護保険主治医意見書、障害保険診断書など)
 - ・ 在宅、訪問診療への参加
 - ・ 地域での機能訓練教室、自立支援活動の見学



大学にリハビリテーション病院が設置され、急性期一回復期一生活期

急性期リハ



昭和大学病院・東病院



横浜市北部病院



江東豊洲病院



藤が丘病院

東京都保健医療公社
大久保病院

NTT東日本関東病院

日本鋼管病院

回復期リハ



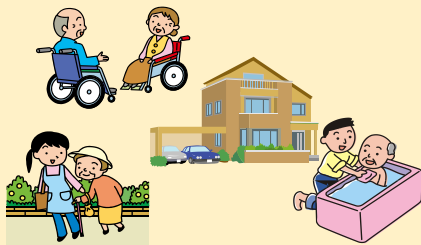
藤が丘リハ病院

三友堂リハセンター 佐久総合病院 船橋リハ病院

横浜旭中央総合病院 新横浜リハ病院 町田慶泉病院

牧田総合病院附属 蒲田分院 初台リハ病院

生活期リハ



大田病院 佐久総合病院 汐田病院

森山リハ・クリニック 港北ニュータウン診療所

地域身体障害者福祉施設 NPO法人など



昭和大学附属6病院



研修協力病院

専門医になるための研修

- 臨床研修医修了後、3年間
- 基幹病院1年間・協力病院2年間（基本）
- 回復期リハ病床6ヶ月間
- その後、専門医試験；（筆記・口頭）



基幹施設 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院リハビリテーション科

指導責任者：川手信行（准教授）

指導医：諸富伸夫（講師）・正岡智和（講師）

連携施設：リハビリテーション科専門研修指導責任者と同指導医（指導責任者と兼務可能）が常勤し、リハビリテーション研修委員会の認定を受け、リハビリテーション科を院内外に標榜している施設です。

関連施設：リハビリテーション科専門研修指導医が常勤していない施設です。指導医が定期的に訪問するなど適切な指導体制が必要です。

【関連施設】

昭和大学病院

指導責任者：笠井史人（准教授）

昭和大学江東豊洲病院

指導責任者：依田光正（准教授）

昭和大学藤が丘病院

指導責任者：城井義隆（講師）

牧田総合病院附属 蒲田分院

指導責任者：山下愛茜（リハ科医長）

NTT東日本関東病院

指導責任者：稲川利光（リハ科部長）

日本鋼管病院

指導責任者：栗山節郎（副院長）

東京都保健医療公社大久保病院

指導責任者：御子神由紀子

町田慶泉病院

指導責任医：自見隆弘（院長）

横浜旭中央総合病院

指導責任者：豊島修（リハ科部長）

三友堂リハビリテーション病院

指導責任者：穂坂雅之（院長）

新横浜リハビリテーション病院

指導責任者：松宮英彦（部長）

初台リハビリテーション病院

指導責任者：菅原英和（部長）

大田病院

指導責任者：細田 悟（リハ科医長）

森山リハビリテーションクリニック

指導責任者：和田真一（院長）

船橋市立リハビリテーション病院

指導責任者：鮫島光博（副院長）

佐久総合病院

指導責任者：太田 正（部長）

港北ニュータウン診療所

指導責任者：神山一行（理事長）

【関連施設】

昭和大学横浜市北部病院

指導者：飯島伸介（助教）

汐田総合病院

指導責任者：宮澤由美（副院長）

図 2 ; ローテーション例

1 年目	2 年目	3 年目	
通年等	期間（半年～1 年）	期間（前半等）	期間（後半等）
基幹研修施設 及び 昭和大学附属関 連病院での研修	関連研修施設 （回復期等）	関連研修施設 （急性期等）	基幹研修施設 及び 昭和大学附属 関連病院・関連 施設での研修
	関連研修施設 （急性期等）	関連研修施設 （回復期等）	
	関連研修施設 （地域回復期等）	関連研修施設 （地域訪問等）	

希望に応じて . . .

- 藤が丘リハビリテーション病院
回復期リハビリテーション病棟の研修
- 急性期リハビリテーション研修
(昭和大学関連病院・その他)
- 維持期（生活期）リハビリテーション研修
- 訪問リハ診療の研修
(協力・連携病院)
- 地域リハ活動への参加
(地域保健・福祉施設)



多彩な研修・学会活動

<研修プログラムに関連した全体行事の年度スケジュール>

- 4月 研修修了予定者: 前年度の研修目標達成度評価報告用紙および経験症例数報告用紙を提出
指導医・指導責任者: 前年度の指導実績報告用紙の提出
昭和大学研修プログラム 参加病院による合同カンファレンス(講演会・症例検討: 3ヶ月に1回開催)
- 6月 日本リハビリテーション医学会学術集会参加(発表)
- 7月 **昭和大学研修プログラム参加病院による合同カンファレンス**
- 9月 日本リハビリテーション医学会関東地方会参加(発表)
- 10月 日本リハビリテーション医学会秋季学術集会参加
- 11月 **昭和大学研修プログラム参加病院による合同カンファレンス**
- 12月 日本リハビリテーション医学会関東地方会参加(発表)
- 2月 **昭和大学研修プログラム参加病院による合同カンファレンス**
- 3月 研修終了
研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙の作成(年次報告)(書類は翌月に提出)
指導医・指導責任者: 指導実績報告用紙の作成(書類は翌月に提出)
日本リハビリテーション医学会関東地方会参加(発表)

日本義肢装具学会、日本運動療法学会、日本摂食嚥下リハ学会などの関連学会
ISPRMなどの国際学会

○医学生・研修医のためのリハセミナーの開催

○リハ医学会主催研修会、超拡大医局会、6大学研究会などの開催

【処遇】

研修期間:3年～5年

身分:

助教(医科)として採用

- (1) 給与 初年次 約34万円(住居手当、宿日直手当、時間外診療手当を含む)
年収約430万円(見込み)
- (2) 通勤交通費 本学規定により付与します。
- (3) 賃金締切日 毎月末日
- (4) 賃金支払日 毎月25日(休日の場合はその前日)
- (5) 賃金支払方法 口座振込
- (6) 賃金控除費目 所得税、社会保険料、住民税
- (7) 賞与 2回/年

大学院（博士課程）入学も可能です。

- ・ 障害者の日常生活活動量に関する研究
- ・ 高齢者の運動器障害と日常生活活動に関する研究
- ・ 姿勢および基本動作の運動学的研究（脊柱運動の動作分析-X線学的検討）
- ・ 嚥下運動の動作解析（X線学的検討）
- ・ 知的障害児における身体障害の評価とアプローチに関する研究
- ・ 脳卒中片麻痺患者の神経学的音楽療法に関する研究
- ・ 高位頸髄損傷者の呼吸機能に関する研究
- ・ 障害者の生活時間調査と生活パターンに関する研究
- ・ ボトックス療法とその応用
- ・ 嚥下リハビリテーション
- ・ 地域包括ケア
- ・ 高次脳機能障害



そして何より・







若い力が結集されていて
・・・なぜか、楽しい科なのです。

ひとりひとりの医師としてのあゆみを
ひとりひとりの生活にあわせて
ひとりひとりのゆめの実現に向けて

Catch the dream !



ホームページ

<http://www10.showa-u.ac.jp/~rehabili/>

(ホームページ昭和大学⇒昭和大学病院⇒各診療科からアクセスできます。)

昭和大学後期研修医募集

<http://www.showa-u.ac.jp/PCTC/senior/index.html>

facebook

<https://www.facebook.com/showareha/>

